

相互レビューを中心とした

申請書ブラッシュアップワークショップの取り組み

○菅井 佳宣、大西 将徳、田上 款、加賀田 博司（京都大学 学術研究支援室）

◆ 背景・目的

日本学術振興会が実施する科研費や特別研究員制度は、規模や対象の広さから大学における研究活動を支える重要な事業である。そのため、科研費申請支援はURA業務の中でも重要な位置を占めており、各大学において様々な取り組みが行われている。

京都大学 学術研究支援室（KURA）では、申請書ブラッシュアップ（B.U.）を中心に様々な申請支援を行っている。しかしながらB.U.支援数が増加したことで、支援の質の低下や他の業務の圧迫が懸念される状況となっている。また、特別研究員応募者など応募経験の浅い研究者へのB.U.支援は非効率的なケースが多いという問題があった。

そこでKURAの工学研究科担当チームでは、上記問題の解決を目的に支援対象者の申請書相互レビューを行うワークショップを実施した。

- 科研費申請支援メニュー例

 - ・公募要領等説明会
 - ・書き方説明会
 - ・審査委員・採択経験者談
 - ・書き方のノウハウを纏めたハンドブックの作成
 - ・申請相談
 - ・申請書B.U.

